

「LPGガス国際セミナー2019」で何が討議されたか

② 2019年中国のPDH用プロパン需要第2期急増に

1. 中国のLPGガス市場の需給データ

2018年の需給は、輸入量 1,899万ト、国内生産量 3,805万ト、輸出量 113万ト、消費量 5,591万トだった。2010年には、輸入量 319万ト、国内生産量 2,139万ト、輸出量 92万ト、消費量 2,366万トだったから、消費量は2.36倍、輸入量は5.95倍、国内生産量は1.78倍となった。国内生産量の増加は石油精製能力の拡大やガソリン消費量の増大に伴うものだが、それだけでは需要の急増を到底賄い切れず、輸入が急増するところとなっている。

中国では中央アジア諸国からのパイプラインによる天然ガスの輸入の増加、LNG輸入基地新增設によるLNG輸入の増加の影響で、LPG需要の伸びが鈍化したことがあったが、家庭業務用分野では沿岸部から内陸部への需要の拡大、2010年代半ば以降のPDH用など化学原料用分野での新規需要の開拓などで消費量は5,600万トとなった。2018年はPDHプラントの新規稼働が限定的で消費の伸び率が低下したが、2019年には新規稼働が続くため、再び大幅な伸びが見込まれている。2000年以降の伸び率は平均で8%だ。

LPGの品種別需要をみると、製油所生産分はプロパン・ブタンミックスが70%程度（2018年約3,800万ト）と大きいが、2014年以降はプロパンの割合が増加している。2018年はプロパンが25%近くを占めた。

2. LPGの輸入

中国のLPG輸入量は2018年には約1,900万トで前年比2.9%増にとどまった。米中の貿易摩擦が影響している。中国の2018年のLPG地域別輸入量とその比率は次のとおり（単位・万ト、%）。

<プロパン>				<ブタン>			
中 東	930	68.9		中 東	442	80.3	
米 国	151	11.2		米 国	12	2.2	
アフリカ	155	11.5		アフリカ	36	6.5	
そ の 他	114	8.5		そ の 他	60	11.0	
合 計	1,350	100.0		合 計	550	100.0	

3. 米中貿易戦争の影響

2018年の米国からのプロパン輸入は8月が最後で、9月以降はゼロとなった。ブタンに関しては、毎月輸入されていたわけではないが、6月に輸入されたのが最後となった。2015～2017年には米国産LPGの輸入が全輸入の20%前後を占めてきたが、2018年は8.6%に落ち込んだ。

中国の輸入業者は25%の関税が上乗せされる米国産カーゴの輸入を敬遠し、非米国産カーゴとのスワップなどでしのいでいる。この結果、中東産及びアフリカ産カーゴの輸入比率が高まった。これは輸入コストの増加をもたらしており、例えばプロピレンなどのマージンが低下している。ただ、現在進行中の米中貿易交渉によって、早期に関税問題は決着すると思われる。

4. 2019年以降のPDHプロジェクト

2018年には新規PDHプラントの稼働は1基（嘉興・浙江省，45万ト，12月稼働開始）にとどまったが，2019年には第1四半期に東莞（広東省）の60万ト，第2四半期に福州（福建省）の66万トと寧波（浙江省）の66万トの3つのプラントが新規稼働の予定となっている。これらがフル稼働すると，プロパン必要量は230万ト／年となる。2020年には淄博（山東省）30万ト，烟台（山東省）100万ト，徐州（江蘇省）60万ト，青島（山東省）75万トの4プラントが立ち上がる予定となっている。これらに必要なプロパンは312万ト／年となる。PDH用プロパン需要急増の第2期となる。当然輸入が大幅に増加することとなる。